

ふくしま恵み安全・安心推進事業

【目的】

福島第一原子力発電所事故に伴い、県内全域で農林産物への放射性物質の影響が及んでいる。このため、放射性物質検査を含めた新たな安全管理システムを戦略的に導入するなど、産地が主体となって行う農林産物の安全確保強化対策を実施するとともに、消費段階での安全性の可視化のための活動を推進する。

これにより、農林産物の安全管理システムを確立し、伊達市産農林産物の安全性確保と消費者の信頼回復を図る。

【実施主体】

県：ふくしまの恵み安全対策協議会

市：伊達市地域農業再生協議会（会長 仁志田昇司市長）

【事業内容】

1 検査機器等整備

①米の全袋検査のための機器整備

（目的） 市で生産された米から、基準値を超える米が、絶対流通・販売、食用に供しないように、ベルトコンベア式検査機器を導入し、米の全袋検査を実施する。

（購入機器）

・キャンベラジャパン社製を3台購入

②出荷用農産物検査のための放射性物質簡易分析器の購入

（目的） 放射性セシウム基準値を超過する農産物を出荷することを未然に防止するために、自主検査体制を強化する。

（購入機器）

・アトミテックス社製NaIシンチレーション 11台購入

・アダニー社製NaIシンチレーション 3台購入

・オートサンプラー付NaIシンチレーション 1台購入（予定）

2 見える化整備事業

各検査会場にデータ管理機器を設置し、検査したデータを県の事務局に報告する。

県の事務局は、そのデータをもとに、検査結果や産地情報を発信し、消費者がQRコードやHPからそのデータを閲覧できるようにする。

【機器設置場所】

1 米の全袋検査（ベルトコンベア式）

①伊達市保原町野崎 保原工業団地内（株）大崎 第3倉庫

2 農産物検査器（NaIシンチレーション）

①保原総合運動公園 管理棟会議室 3台

②伊達みらい農業協同組合本店 8台

③んめーべ 2台

④直売所 かぼちゃ 1台

⑤直売所 伊達駅なかプラザ 1台

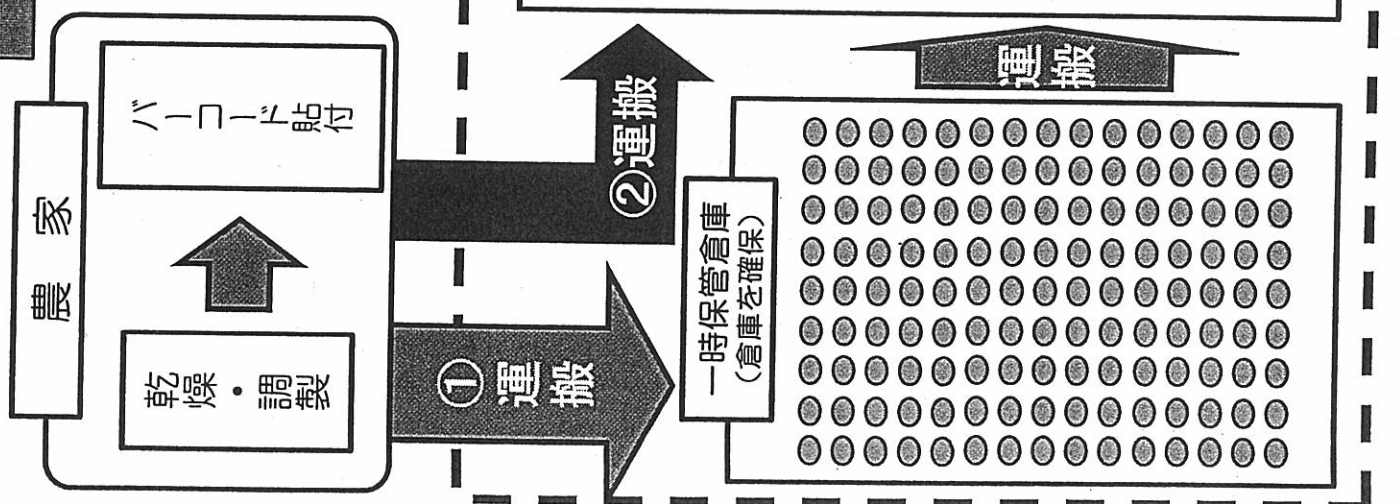
〔左記に設置する機器については、出荷用農産物を検査する〕

【事業費】

1 検査機器等整備	110,533千円
2 安全安心見える化対策事業	160,114千円
合計	270,647千円

検討部分Aのイメージ-2

- 1 農家段階で、バーコードを貼付し、その後、
 - ①一時保管倉庫に搬入し、一定量を放射性物質検査場所に搬入
 - ②個々の農家の搬入予定を調整し、放射性物質検査場所に搬入
 - 2 放射性物質検査を受検し、スクリーニングレベル以下は、倉庫に運搬、スクリーニングレベル超は別倉庫に運搬し詳細検査へ
 - 3 集荷業者の倉庫で、農産物検査を実施、出荷または保管
- ※ 農産物検査のデータを後付けで付与する必要
- ※ 農家への概算金の精算が放射性物質検査後（米の処分、賠償）



ふくしまの恵み安全・安心推進事業
(産地が行う自主検査)

(県が行う検査)

市町村ごとに出荷前に検査

- ①放射性物質の本県農
林水産物への影響の把
握
②出荷・摂取制限を受け
た農林水産物の制限の
解除
③本県農林水産物の安
全性確認と消費者に対
する正確な情報の提供

100Bq/kg以下→出荷
100Bq/kg超過
→市町村等单位
出荷自肅要請

